● 3つの基本方針に従った汚染水対策の推進に関する取り組みを行っています ①汚染源を「取り除く」②汚染源に水を「近づけない」③汚染水を「漏らさない」

中長期ロードマップにおけるマイルストーン(主要な目標工程)

- ・【完了】汚染水発生量を150m³/日以下に抑制(2020年内)
- ・【完了】汚染水発生量を100m³/日以下に抑制(2025年内)
- ・【完了】建屋内滞留水処理完了※(2020年内) ※1~3 号機原子炉建屋、プロセス主建屋、高温焼却建屋を除く。・【完了】原子炉建屋滞留水を2020年末の半分程度に低減(2022年度~2024年度)

参考資料 1/6 2025年10月30日 廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合 事務局会議

> 日本海溝津波 防潮堤本体

> > 日本海溝津波防潮堤

<4号機南側>

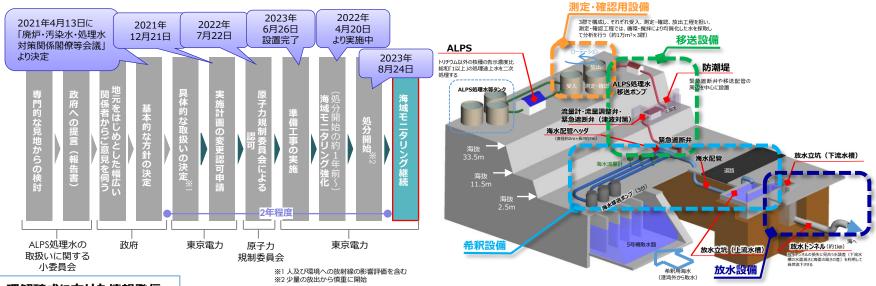
		and the (Thingstee)	and the (Thing to)	notete (Thomas	I south (Thouse)	and the (Things in)	2010/5 (77-100/5)		1 0000 to (0.700 to)	0001 (0 700 (0)	0000 to (0 to to)	0000 to (0 TRE to)	0001 (0706 (0)	0005/5 (0703)	days \
		2011年(平成23年) 2012年(平成24年) ▽集中廃棄物処理建屋への滞留水受け入れ開始	2013年(平成25年) 2014年(平成26年)	2015年(平成27年)	2016年(平成28年)	2017年(平成29年)	2018年(平成30年)	2019年 (平成31年/令和元年)	2020年(令和2年)	2021年(令和3年)	2022年(令和4年)	2023年(令和5年)	2024年(令和6年)	2025年(令和75	平)
		▽除染装置(AREVA)	セシウム吸着装置	▽RO濃縮塩水の処理	完了		⊽⊅	- ランジタンク内のストロンチウム処理水 -	の浄化処理完了	Anam Lange date and					
		▽蒸発濃縮装置							▽ストロンチウ	△処理水の浄化処理完了┃					
				ニトンウ/ 明芝は悪(パリワのいて	071 D) 40/ B) +/204 F/F4 B/										
		▽セシウム吸着装置 (KURION)			のストロンチウム除去(2015年1月6										
		▽第二セシウム吸着装置(SARRY)	∀	第二セシウム吸着装置(SARRY)で	のストロンチウム除去(2014年12月 	月26日~)									
	汚染水処理設備	WY S						▽第三セシウム収	及着装置(SARRYII)でのストロン	チウム除去(2019年7月12日~)					
		M4 3		▽ストロンチウム処理水の処 B系: 2013年6月13日~、C系:	処理開始(ALPS:2015年12月 :2013年9月27日〜 ホット試験?	4日〜、増設:2015年5月27日〜 を実施)	、高性能:2015年4月15日~)								
		A	AND THE RESERVE OF THE PARTY OF	《種除去設備(増設ALPS)			* 本門 () () () () () () () () () (
NECES AL CAR		B. Company	多核種除去設備				重転開始(2017年10月16日〜)								
汚染水対策 【取り除く】			V ⊟/EB	能多核種除去設備(高性能ALPS))(2014年10月18日〜 ホット I	試験を実施) 						▽使用前検査終了証受領	2023年3月2日)		
			(ALPS)					m ³ /B	サブドレン稼働開始	<u> </u>	■ 福島第一路兩量	, m/B			
		第二セシウム吸着装置	▽モバイル設備によるトレンチ浄化	▽ ▽滞留水移送完了	トンネル部充填完了	▽立坑充填完了	2号海水	K配管トレンチ	地下水バイバス		一 汚染水発生量一 建屋への地下水・雨水等流入量	J 50			
		(サリー)の陸揚げ	2号			76.		000							
				▽トンネル部充填完了 ▽滞留水移送完	 了		<u>177) ((</u>	D充填作業	海側這水壁閉合完了 陸側這水壁 (海側)凍結5	ŧ7		均降			
	海水配管トレンチ内の 汚染水除去	De-Large II > 7 do n/E/h-l	1,50+1	▽立坑充填完	記了(立坑D上部除く) I			·····································	1 19490 T	深部の一部を除き ・ 陸側遮水型完成と評価 (深新来源原理原注明については、2016年9月までに連絡当7)		30 🖁			
	汚染水除去	【海水配管トレンチ内の汚染力	/陈五	っ ▽トンネル部充填完了				400	\$5400	1					
				▽開口部Ⅱ・Ⅲ充填完了	滞留水移送完了	and the			\$9350 V \$1270 I	#9220		5			
		A STATE OF THE PARTY OF THE PAR		▽.	放水路上越部充填完了	A 200	A III kurak	200	3200	\$170 \$140 \$140	#約130 新990 新980 新70a	10			
			4	3			Mileson A.	0		第120 第00 第	100 MB10 MB100 MB1	™ ₀			
							THE REAL PROPERTY.		2014年度 2015年度 2016年度 2017年	- ウムトのウムトのウムトのウムトの 度 2018年度 2019年度 2020年度 202		汚染水発生量を			
	地下水バイパス	▽地下オ	水パイパス設置開始 ▽ 地下水パイパス 和	家働開始(2014年5月21日	日より排水開始)		-	•				約80m³/日	こ抑制		
		地下水バイパス揚水井													
			▽サブドレンピット既設復旧・新設開始	⇔#⊐.p.i	○.按斯関州 /2015年0日	14日 トトンキキートクリキムン	▽加那台+横沙								
汚染水対策	サブドレン		▽サブドレン他水処理設備設置工事着手		レン稼働開始(2015年9月 b:1000m³/日)	14口より排水開始)	▽ 処理能力増強 (2000m³/日)								
【近づけない】		一		0-E 2000	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,										
		(A) (基立) 图(A)	▽陸側遮水壁設置	工事開始	▽凍結開始	▽北側、南側にて維持 東側にて維持管理運転開始▽			差付近の一部測温管で局所的に0 始 陸側遮水	℃を超過していることを確認▽ 、壁の遮水機能に影響はないが、試験	食的に止水効果を調査中				
	陸側遮水壁	一大的新州 (10)				The state of the s			, (A)ACC / 3						
	7- 33 #	HブドI∴海ル≡ル陸	(法児心症った) はデニノン ハム	がは、活躍和答	▽雨水の土壌浸透を抑える	敷地舗装(フェーシング) 完了	海側遮水	壁打設完了の様子―	▽雨水の土壌浸透を抑える	 敗地舗装(フェーシング)完了					
	フェーシング	サブドレン浄化設備	陸側遮水壁ブライン(冷	妹/1個垛部官	(2.5m盤·6.5m盤·1 ⁻	~4号機周辺を除く)	65		(1~4号機周辺を除く)	,,					
		護序の観測用开戸から高濃度の放射	性物質を検出▽ ▽2.5m盤 水ガラスによる地盤改良 開始		▽完了		1	1							
			▽汚染エリアからの水の汲上げ(ウェルポイント)開	始		-	15	Service Control							
	護岸地下水対策	▽海側遮水壁 設置着手		————————————————————————————————————	 遮水壁 設置完了	8									
						BEDSER, LI-BRIEN									
				▽地	下水ドレン稼働開始(2015年11)	/JOロ次が上り用始) 									
				▽RO濃縮塩水の浄化											
	RY COURS COM	▽銅製角型タンクによる貯留	▽銅	▽ KU機構場水の浄化 製角形タンクのリプレース完了	KPET J	23.10		▽銅製横置きタンクの撤去完了	(濃縮廃液貯留用タンク以外)						
NT-14			▽フランジタンクから300トンの漏洩		:15							42	THE REAL PROPERTY.		
方梁水対策 【漏ら <u>さない】</u>			▽フランジタンクから100トンの水湯			ALC: NO.									
		▽鋼製円筒フランジタンクによる貯留 ▽フランジタンクから10Lの水漏れ	▽漏洩拡散防止のための堰設置完了 ▽堰高さ高上げ完了				⊽⊅	リランジタンク内のストロンチウム □ ▽フランジタンク内の処理水を	ム処理水の浄化処理完了 全て溶接型タンクに移送・貯留			Annual Property of the Parket			
		マンフンファップIOLOの小調内 L	v · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			and the same of th		、フランフラフトラン大の主小で	ユ くに以至ノンハにかね ガ 圃			THE REAL PROPERTY.			
			▽地下貯水槽からの汚染水漏洩⇒タンクへの移送開始		-										
			▽汚染水のタンクへの移送完了		All man										
			□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □		AS LOUI				▽ストロンチウ	 ム処理水の浄化処理完了		and the second	The state of the s		
					A Part of the Part	カン b7キョル・カット					-				
			▽雨水処理設備による	タンク堰内雨水の散水開始(2014) 1年5月21日~)	接タンク建設中の様子						ノフンジグ	シク、溶接タンク		
					I ン水位との水位差確保開始				7	7建屋滞留水処理完了		▽ 原子炉建屋滞留水を	2020年末の		
		▽滞留水移送装置設置·移送開始	▽移送ラインの信頼性向上 (PE管化) 工事完了	▽各建屋が	ら集中Rw建屋への移送開始							半分程度に低減の達			
- man I	L An III					▽1号機T/B 床面露出	▽1号機・	2号機滞留水切離し							
滞留才	大处理							▽1号機Rw/B 床面露出	▽2号档	│ <pre> <pre> <</pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre></pre>	▽2号機R/B 目標水位まで	 低下完了			
						▽	3号機・4号機滞留水切離し		▽3号機T/B	·Rw·B 床面露出		▽1,3号機R/B 目標水位ま	で低下完了		
									▽4亏機R/B	·T/B·Rw/B 床面露出		<u> </u>			
	開口部閉止	▽建屋開口部閉		機 T/B建屋工事完了			▽プロセス	主建屋工事完了		28#0 (07#8+	▽開口部閉止対策完了				
			▽共用ブール工事完了 ▽	H T I 建屋工事完了				▽3号機T/B建屋工事完了	▽1	~3号機R/B建屋工事完了	▽ 1 ~4号機Rw/B建屋工事完了				
								_ or she when	***	口手海港油油砂油用					
津波リスクへの対応		□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	- ライズ津波防潮堤 設置完了				▽十島海洋		日本海溝津波防潮堤		日本海溝津波防潮堤 本体工事	完了▽			
									- 1012/0	7070					
	メガフロート						▽ 海	 上工事開始 メガフロート()	」 反着底▽ ▽内部充填乳	 完了(津波リスク低減)					
	7,7,7,2														



参考資料 2/6 2025年10月30日 廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合 事務局会議

2021年4月13日、「廃炉・汚染水・処理水対策関係閣僚等会議」が開催され、多核種除去設備等処理水の処分に関する基本方針が決定されました。 これを踏まえて、4月16日に東京電力の対応について公表しました。

ALPS処理水の海洋放出に当たっては、安全に関する基準等を遵守し、人及び周辺環境、農林水産品の安全を確保してまいります。また、風評影響を最大限抑制するべく、 強化したモニタリングの実施、第三者による客観性・透明性の確保、IAEAによる安全性確認などに継続的に取り組むとともに、正確な情報を透明性高く、発信していきます。



●海洋生物の飼育試験

計画していた海洋生物の飼育試験を全て完了した。飼育試験で確認したことは以下のとおり。

- ・「通常海水」と「海水で希釈したALPS処理水」の双方の環境下で海洋 生物の飼育試験を実施し、飼育状況等のデータにより生育状況の比較 を行い、生育状況に差がないことを確認した。
- ・過去の知見と同様に「生体内でのトリチウムは濃縮されず、生体内のトリチウム濃度が生育環境以上の濃度にならないこと」を確認した。
- ・通常海水で飼育を行っていたヒラメおよびアワビについて、「環境中に放出された水」を使い飼育を開始したが、その前後でヒラメおよびアワビの生育状況に著しい変化はないことを確認した。約半年間の環境中に放出された水を使った飼育において、ヒラメ、アワビは変わりなく生育していることを確認した。

理解醸成に向けた情報発信・ コミュニケーション

■ 様々な媒体を通じた廃炉に関するコミュニケーションや発電 所視察により理解を深めて頂くよう取り組みを実施します。



- 当社ホームページ内の特設サイト「処理水ポータルサイト」(日・英・中・韓)にて、放射性物質モニタリング結果等もタイムリーに公開
- 福島第一原子力発電所の視察・座 談会を2019年度から、浜通りの13 市町村を対象に開催。2021年度以 降は福島県内に拡大して実施





■ 訪問説明や説明会等のさまざまな機会を 通じ、関係者のご意見をお伺いし、その 想いを真摯に受け止めながら、当社の取 組や考え、風評対策等をお伝えするコミュ ニケーションを継続

●ALPS処理水海洋放出の状況

2023年8月24日よりALPS処理水の海洋放出を開始し、9月11日に初回の放出を完了しました。現在までに、以下のとおり実施しています。

放出期間中、国、福島県、東京電力が実施している海域モニタリングにおいても、異常は認められていません。

<2025年度の実績>

放出したタンク群	A群	C群	A群	B群
トリチウム濃度	37万ベクレル/スス	25万ベクレル/ポ	38万ベクレル/スス	21万ベクレル/スス
放出開始	2025年4月10日	2025年7月14日	2025年8月7日	2025年9月11日
放出終了	2025年4月28日	2025年8月3日	2025年8月25日	2025年9月29日
放出量	7,853m ³	7,873m ³	7,908m ³	7,872m ³
トリチウム総量	約2.9兆ベクレル	約2.0兆ベクレル	約3.0兆ベクレル	約1.7兆ベクレル

●国際原子力機関(IAEA)の安全性レビュー包括報告書

ALPS処理水の取扱いに係る安全性レビューを総括する報告書が2023年7月4日、IAEAから公表されました。

同報告書の要旨では、①日本のALPS処理水に係る活動は関連する国際的な安全基準に整合的であること、②ALPS処理水の海洋放出が人及び環境に与える放射線の影響は無視できるものであることが結論付けられています。

今後とも、IAEAに対する必要な情報共有を継続するとともにALPS処理水の海洋放出について、国際社会の一層の理解を醸成していくことに努めます。

IAEA COMPREHENSIVE
REPORT ON THE
SAFETY REVIEW
OF THE ALPS-TREATED
WATER AT THE
FUKUSHIMA DAIICHI
NUCLEAR POWER STATION

https://www.iaea.org/topics/response/fukushima-daiichi-alps-treated-water-discharge-comprehensive-reports

ALPS処理水の取扱いに関する検討

トリチウム水タスクフォース (2013/12~2016/5、15回)

2014



2016/6 トリチウム水 タスクフォース報告書

多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会

(2016/11~2020/1、17回)

2018/8 説明·公聴会、意見募集▲

2020/2 多核種除去設備等処理水の取扱い に関する小委員会報告書

多核種除去設備等処理水の取扱い 2021/12/28 TALF3処理水の処分に関する基本分割の作 に係る関係者の御意見を伺う場 2020/10 7回) 多核種除去設備等処理水の処分に係る実施計画に関する審査会合

2021/4/13 多核種除去設備等処理水の処分に 関する基本方針決定

2021/4/16 東京電力の対応について公表 ▼

(2020/4~2020/10、7回) (2021/7~2022/4、15回)

2022/4/28、5/13、7/15

2022/7/22 実施計画変更認可申請書 認可 ▼

2022/4/28、5/13、//13 ▼実施計画変更認可申請書 一部補正の申請 ▼2023/2/14,20

2021/12/21 多核種除去設備等処理水の取扱いに関する

「福島第一原子力発電所特定原子力施設に係る実施計画変更認可申請書」の申請

2021/12/28「ALPS処理水の処分に関する基本方針の着実な実行に向けた行動計画」の策定

2022/8/4 工事着工

2023/8/24 放出開始

▼2023/5/10 認可 ′2/14,20

実施計画変更認可申請書の申請

くだけ国文文誌う中間自分中間 (組織体制、測定・評価対象核種の選定等)

大型休憩所から見たタンクエリア(2015年10月29日) A 2.015

2017 2018

2019

2020

2021

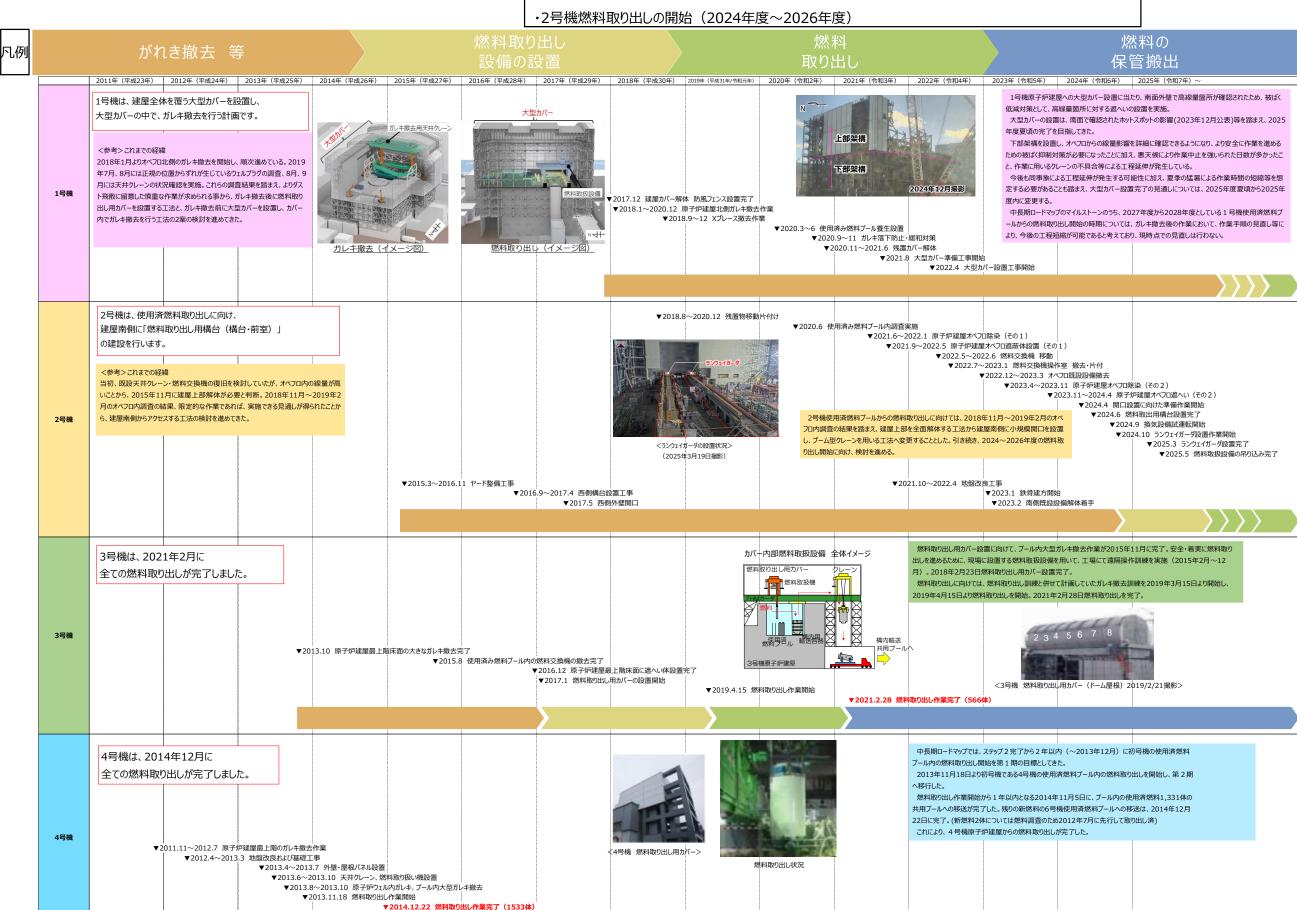
2022/8/30 「福島第一原子力発電 所におけるALPS処理水の処分に伴う対 策の強化・拡充の考え方」とりまとめ 2022/11/14 実施計画亦再認可由語

2023/6/26 設置工事完了 2023/7/7 使用前検査 終了証受領

2022/11/14 実施計画変更認可申請書 の申請(組織体制、測定・評価対象核種の改定等) 中長期ロードマップにおけるマイルストーン(主要な目標工程)

- ・1~6号機燃料取り出しの完了(2031年内)
- ・1号機大型カバーの設置完了(2023年度頃)、1号機燃料取り出しの開始(2027年度~2028年度)

参考資料 3/6 2025年10月30日 廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合 事務局会議



中長期ロードマップにおけるマイルストーン(主要な目標工程)

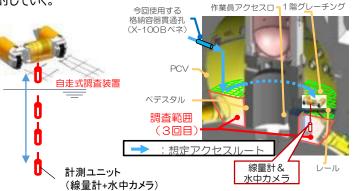
初号機の燃料デブリ取り出しの開始 2号機から着手。段階的に取り出し規模を拡大(2024年9月10日より、燃料デブリ試験的取り出し開始)

参考資料 4/6 2025年10月30日 廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合

燃料デブリ取り出しに先立ち、燃料デブリの位置等格納容器内の状況把握のため原子炉格納容器(以下、PCV)内部調査を実施。

1号機調音概要

- ・2015年4月に、狭隘なアクセスロ(内径φ100mm)から調査装置を 格納容器内に進入させ、格納容器1階内部の映像、空間線量等の情 報を取得。
- ・2017年3月、ペデスタル外地下階へのデブリの広がりを調査するため、 自走式調査装置を用いた調査を実施し、PCV底部の状況を初めて撮 影。得られた画像データと線量データを元に、PCV内部の状況を継続検 討していく。



<測定イメージ>

・2022年2月に、調査を円滑に進める装置である「ガイドリング」を取付。 2023年3月28日よりROV-A2によるペデスタル内の調査を開始し、ペデスタル 内側の基礎部において一部配筋が露出していることを確認。ペデスタルの健全性 に関しては、過去IRIDで実施した耐震性評価より、ペデスタルが一部欠損してい ても重大なリスクはないと評価しているが、現時点の情報は部分的なものであるた め、可能な限り多くの情報取得をすべく、引き続き調査を継続し評価していく。



1号機 PCV内部調查案績 PCV内部調查案 (2月9日) >

1 与機 「CVP」即過且天順						
	1回目 (2012年10月)	・映像取得 ・雰囲気温度、線量測定・水位、水温測定・滞留水の採取・常設監視計器設置				
PCV内部	2回目 (2015年4月)	PCV1階の状況確認 ・映像取得 ・雰囲気温度、線量測定 ・常設監視計器交換				
調査実績	3回目 (2017年3月)	PCV地下1階の状況確認 ・映像取得 ・線量測定 ・堆積物の採取 ・常設監視計器交換				
	4回目 (2022年2月~)	PCV内部(パデスクル内外)の情報収集・映像取得・堆積物厚さ測定、採取・堆積物デブリ検知、3Dマッピング				
PCVからの漏 えい箇所	・PCVベント管真空破壊ラインベローズ部(2014年5月確認) ・サンドクッションドレンライン (2013年11月確認)					

ミュオン測定による燃料デブリ位置評価

2号機 調査概要

- ・2017年1月に、格納容器貫通部からカメラを挿入し、ロボットが走行するレールの状 況を確認。一連の調査で、ペデスタル内のグレーチングの脱落や変形、ペデスタル内に 多くの堆積物があることを確認。
- ・2018年1月、ペデスタル内プラットホーム下の調査を実施。取得した画像を分析した 結果、燃料デブリを含むと思われる堆積物がペデスタル底部に堆積している状況を確 認。堆積物が周囲より高く堆積している箇所が複数あることから、燃料デブリの落下経 路が複数存在していると推定。
- ・2019年2月、ペデスタル底部及びプラットホーム上の堆積物への接触調査を実施し 小石状の堆積物を把持して動かせること、把持できない硬い岩状の堆積物が存在す る可能性があることを確認。



ペデスタル底部の状況(パノラマ合成処理後)

・2020年10月、PCV貫通部(X-6ペネ)の堆積物接触調査を実施。今回の調査範囲に おいて、接触により貫通孔内の堆積物は形状が変化し、固着していないことを確認。



<接触前後の堆積物の状況>



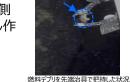
<貫通孔前での作業状況>

・2024年9月10日より、テレスコ式装置の先端治具が隔離弁を通過し、燃料デブリ試験的取り出し を開始。10月30日に燃料デブリを先端治具で把持し、11月2日にガイドパイプの引き抜きを完了し、

テレスコ式装置をエンクロージャ内に格納。 11月7日に燃料デブリをエンクロージャ側 面のハッチから搬出し、試験的取り出し作 業を完了。

2号機 PCV内部調查実績

の漏えい





把持した燃料デブリを運搬用ボックスに回収する様子

	1回目 (2012年1月)	・映像取得・雰囲気温度測定
	2回目 (2012年3月)	·水面確認 ·水温測定 ·雰囲気線量測定
PCV内部	3回目 (2013年2月~2014 年6月)	・映像取得・滞留水の採取・水位測定・常設監視計器設置
調査実績	4回目 (2017年1月~2月)	·映像取得 ·雰囲気線量測定 ·雰囲気温度測定
	5回目(2018年1月)	·映像取得 ·雰囲気線量測定 ·雰囲気温度測定
	6回目(2019年2月)	・映像取得 ・雰囲気線量測定 ・雰囲気温度測定 ・一部堆積 物の性状把握
PCVから		

ミュオン測定による燃料デブリ位置評価 圧力容器底部及び炉心下部、炉心外周域に燃料デブルと考えられる高密度 の物質が存在していることを確認。燃料デブリの大部分が圧力容器底部に存在していると推定。(2016年3月~7月)

・トーラス室上部漏えい無 ·S/C内側・外側全周漏えい無

3号機 調査概要

- ・2014年10月、PCV内部調査用に予定しているPCV貫通部(X-53ペネ)の水没 確認を遠隔超音波探傷装置を用いて調査を実施し、水没していないことを確認。
- ・2015年10月、PCV内を確認するため、X-53ペネから格納容器内部へ調査装置を 入れ、映像、線量、温度の情報を取得、内部の滞留水を採取。格納容器内の構造 物・壁面に損傷は確認されず、水位は推定値と一致しており、内部の線量は他の号機 に比べて低いことを確認。
- ・2017年7月に、水中ROV(水中遊泳式遠隔調査装置)を用いて、ペデスタル内の調 査を実施。調査で得られた画像データの分析を行い、複数の構造物の損傷や炉内構 造物と推定される構造物を確認。
- ・また、調査で得られた映像による3次元復元を実施。復元により、旋回式のプラット ホームがレール上から外れ一部が堆積物に埋まっている状況等、構造物の相対的な位 置を視覚的に把握することが出来た。

<ペデスタル内部の状況>



3号機 PCV内部調査実績

PCV内部 調査実績	1回目 (2015年10月~12月)	・映像取得 ・雰囲気温度、線量測定・水位、水温測定 ・滞留水の採取・常設監視計器設置(2015年12月)				
<u> </u>	2回目 (2017年7月)	・映像取得 ・常設監視計器交換(2017年8月)				
PCVからの 漏えい箇所	・主蒸気配管ベローズ部(2014年5月確認)					
	•	_				

ミュオン測定による燃料デブリ位置評価

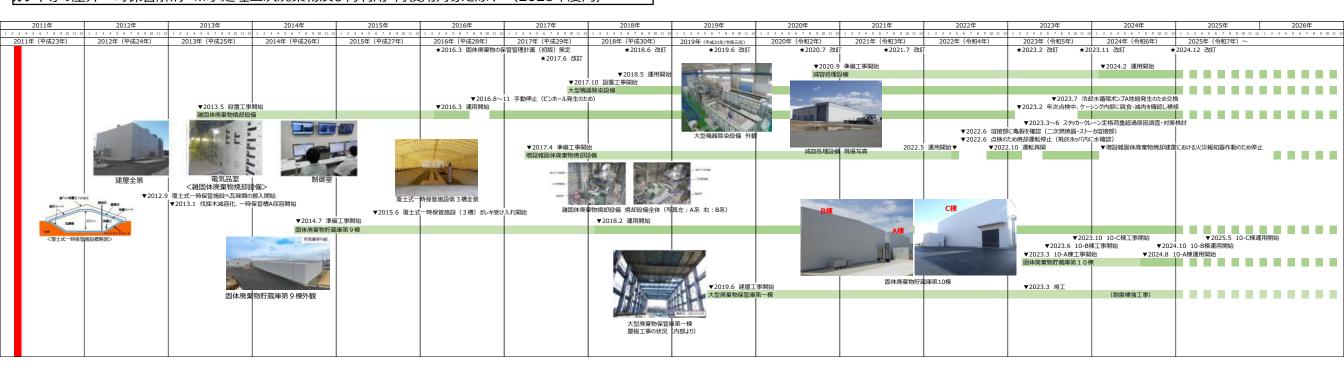
もともと燃料が存在していた炉心域に大きな塊は存在しないこと、原子炉圧力容器底部に一 部燃料デブリが存在している可能性があることを評価。(2017年5月~9月)

画像提供:国際廃炉研究開発機構(IRID)

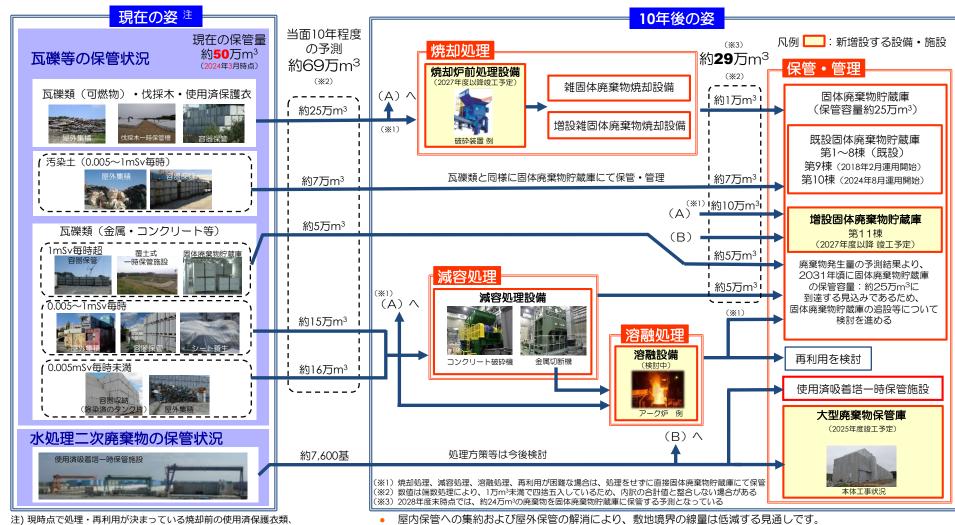
参考資料 5/6 2025年10月30日 廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合 事務局会議

中長期ロードマップにおけるマイルストーン(主要な目標工程)

ガレキ等の屋外一時保管解消 ※水処理二次廃棄物及び再利用·再使用対象を除く



●福島第一原子力発電所の固体廃棄物の保管管理計画(2024年12月版)



BGレベルのコンクリートガラは含んでいない

- 焼却設備の排ガスや敷地境界の線量を計測し、ホームページ等にて公表しています。

参考資料 6/6 2025年10月30日 廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合 事務局会議

作業員の被ばく線量管理を確実に実施しながら長期に亘って要員を確保。また、現場のニーズを把握しながら継続的に作業環境や労働条件を改善

発電所全体の放射線量低減・汚染拡大防止については、これまでガレキ撤去や表土除去、フェーシングを行うことで構内の放射線量を低減するとともに、環境改善が進んだ 範囲をグリーンゾーンとして、身体的負荷の少ない一般作業服と使い捨て式防塵マスクで作業できるよう運用の改善も図ってまいりました。

